

縁の下の

力もち



「利他」的な
事業の根幹は、
龍谷大学の風土の
おかげです。

うみこうた
魚見航大さん (写真左端)

1994年、広島生まれ。三重の高校を経て龍谷大学政策学部へ進学、学部のプロジェクトで構内の「カフェ樹林」を知り、障害者とともに靴磨きを学び、出張靴磨き業を始めた。2017年3月、卒業直前に「株式会社 革靴をはいた猫」を設立、代表取締役となる。2018年、靴磨きと靴修理の実店舗「革靴をはいた猫」もオープン。出張靴磨きに加え、持ち込み・宅配での靴磨きに正社員5人で応じている。



「革靴をはいた猫」の藤井店長は時間をかけて顔が映るほどピカピカに靴を磨き上げる。靴磨きについて、質問されるのが嬉しい。



代表の魚見さん達が修行した靴磨き店は英国風。そこで学んだスタイルを踏襲して、スタッフたちはスーツとネクタイ姿。ホテルからも声がかかる。

「障害」があっても可能性を見限らない
本来の力を引き出し活躍できる社会を目指す

京都市役所近く、御池通に面した「革靴をはいた猫」は英国調の設えの靴磨き・靴修理の店だ。カウンターではベストにネクタイ姿の店長、副店長らが、布や指先まで使う靴の鏡面磨きに余念がない。

「革の毛穴にまで塗り込んで磨くことで鏡のようになりませう。ウイスキーでワックスの固さを調節するなど職人のノウハウもあります」と語るのは代表の魚見航大さん。

大学在学中、構内の福祉作業所「カフェ樹林」の活動に関わり、知的・発達障害者らが社会で自立して働く道を模索した。その過程で「何かをしてあげる」のではなく、未来の可能性を「引き出し合う」ことだと学び、一生ものの職人技術として靴磨きに着目。プロの技術をとくに学び、障害者らと学生の皆が「職

人」としての意識と立場で、企業への出張靴磨き事業を始めた。

卒業の頃には技術面、社交面において皆が大きく成長していることを実感。確かな手応えを感じる中、更なる可能性を信じて起業した。1年後、メンバーのひとり「自分の店を持ちたい」と希望。写真現像店の協力を受け、好立地の現店舗が実現した。今や店には他県からも靴が送られて来るほか、店長らは開業希望の人に仕事を教えるまでになっている。

一人の人間としての性格や熱意、可能性を引き出し、活かし合うことは、すべての人が生きやすい持続可能な社会を目指し支えることでもある。京都の一角で福祉を越えた事業を、5名の若者たちが展開している。

私も力もちです

いろいろな能力を持つ人が多様性を活かす「革靴をはいた猫」と同様に、三洋化成は多様性を活かすダイバーシティに注力し、機能性化学品を通じて、暮らしや産業のさまざまな分野を支えています。

三洋化成工業株式会社

京都市東山区一橋野本町11-1
 もよりバス停は「泉涌寺道」

Twitter 始めました

@sanyochemical

2019年11月1日、
 当社は70周年を
 迎えました。